

シラバス参照

科目名	接客英語Ⅱ (OR英語)
配当年次	1年次
開講期間	秋学期
単位数	2
担当教員	三國 信夫(ミクニ ノブオ)
期間・曜日・時限・教室	秋学期 木曜日 1時限 13-208

※	
授業の目的・目標	(1)授業の概要 語学・基礎 (2)授業の目的 訪日外国人観光客が急増する昨今、接客業においても外国人観光客への対応が迫られています。この授業では、実際の接客場面でのような英語表現を使用した良いのか、具体的なシーンを想定しながら重要な英語表現を学んでいきます。 (3)学習成果 就職後にも役に立つ英語が身につきます。 英語を通してコミュニケーション力が身につきます(①前に踏み出す力、③協力する力)。 接客英語を学ぶことで、就職活動の準備もできます(⑤ビジネススキル)。 (4)授業の到達目標 広い教養と、深い専門的な知識や技能を備え、地域社会や国際社会で活躍できる能力(ディプロマポリシーの①)。 社会の多様性に配慮して主体的かつ協同的に実社会で貢献できる能力(短大ディプロマポリシーの③)。
準備学習等の指示	・前週までの復習を十分にして、授業に臨むこと。 ・毎回、授業開始直後に小テストを行う。 ・授業中に指示された課題について、TeamsまたはWEBクラスで提出する。 ・毎日30分以上の自宅学習の時間を確保する。 ・1週間で3時間30分以上の自宅学習の時間を確保する。
講義スケジュール	以下のことが身につく。 なお、授業では、ペアワークやグループワークなどの「アクティブ・ラーニング」を多用する。 1 あらためて接客英語を学ぶ必要性について学ぶ。 2 接客英語の応用表現①を学ぶ。 3 接客英語の応用表現②を学ぶ。 4 レストランでの英語表現①を学ぶ。 5 レストランでの英語表現②を学ぶ。 6 レストランでの英語表現③を学ぶ。 7 ホテルでの英語表現①を学ぶ。 8 ホテルでの英語表現②を学ぶ。 9 ホテルでの英語表現③を学ぶ。 10 販売業での英語表現①を学ぶ。 11 販売業での英語表現②を学ぶ。 12 電話対応の英語表現①を学ぶ。 13 電話対応の英語表現②を学ぶ。
教科書	授業開始時に指定する。
参考文献	授業開始時に指定する。
授業の方法	講義(30%)と演習(70%)。 特に演習(ディスカッション等)には多くの時間を割く。
成績評価方法	(1)評価方法 課題・試験 (2)割合 50:50 (3)評価基準 それぞれ60%以上 (4)フィードバックの方法 レポートに対するコメント
オフィスアワー	年度初めに発表する。
居室	13号館6階 13-601

ホームページ	
その他特記事項	
添付ファイル	